

## 大井町立湘光中学校

研究テーマ：「主体的に学習に取り組む生徒の育成に向けて」

～聴いて、考えて、つなげる授業づくり～

### 1 実践の目的

本校は、教科と道徳を学びの両輪として研究を行っている。その中心的な取組みとして、「学びのステップ」「カンファレンス」「学習プラン」「生徒と問いを創造する授業」などがある。「学びのステップ」では、聴き方、話し方を身に付けさせることで、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させるとともに、生徒同士の話し合い活動を充実させ、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育もうとしている。「カンファレンス」では、様々な学年の生徒と授業について話し合い、考えることで学びを深化させ、主体的に学習に取り組む態度を養うことをねらいとしている。これらをとおして、「生徒が主役」の授業を創り上げ、生徒一人ひとりの生きる力を育むことが目的である。

### 2 実践の内容

#### (1) 研究組織

「学習の基盤となる資質・能力」を育成する授業を提案するために、各教科を3つのグループに分類し、研究を進めた。

#### ○グループA【言語能力】

国語 音楽 英語（外国語）

#### ○グループB【情報活用能力】

数学 理科 技術・家庭

#### ○グループC【問題発見・解決能力】

社会 美術 保健体育

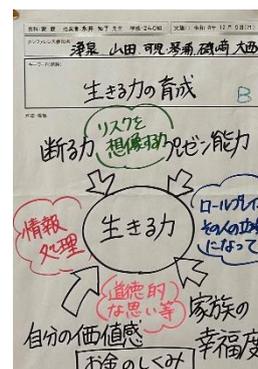
各グループで教科横断的な視点に立ってチームでの検討会を実施した。

#### (2) 提案授業、カンファレンスの様子

提案授業は、各グループで検討会を行っている。検討会では、1時間の授業内容を構想するのではなく、「単元全体をとおして身に付けさせたい資質・能力を育成することができるか」「育成するためのねらいやしかけは適切か」などを検討し、グループ全員が提案者という意識をもって取り組んでいる。



提案授業には、各学年から数名ずつ生徒が参観者として参加する。カンファレンスには生徒と教師と一緒に協議を行うカンファレンスAと教師と生徒が分かれて行うカンファレンスBがある。「授業は、ねらいに迫っていたか」や「授業のしかけはねらいを達成するためのものになっていたか」などを検討する。教師や生徒が授業について本音で話し合い、今後の授業をどう改善していくかを検討している。カンファレンスでまとめたものは、全生徒ならびに全教職員が見られ



るように掲示している。

### (3) 校内研修会の様子

今年度は、主体的に学習に取り組む生徒を育成するためにどのような取り組みが必要なのかについての研修を、授業改善アドバイザー三浦修一先生のもと行った。授業に対する教師の意識改革や、最新の教育についての情報を知ること、授業づくりのヒントを得ることができた。また、「学びのステップ」に考え方を付け加えた新たなものをつくるための検討も行った。

研修会では、全員がタブレット端末を使用して資料を見たり、話し合いを進めたりした。研修会でタブレット端末を使うことで授業でも活用しようとする教師が増えたことも成果である。

### (4) 道徳の実践

本校はローテーション道徳を行っている。学年の教師が各クラスを持ち回りで授業を行うことで、多様で魅力のある授業を行うことができている。また、学級担任が自分のクラスの授業を参観して、生徒理解をより深めることもできた。

授業の進め方としては、「生徒とともに問いを創造する授業」を目指している。これは授業者の主導性の高い授業から生徒中心の授業への転換を図るため、生徒の問いや議論を大切にするとするものである。こうした授業を重ねることにより、互いの自由を尊重し認め合うという、学級における人間関係の構築につながっていくと考えられる。

## 3 実践の成果と課題

### (1) 教師や生徒の変容

教師側は、カンファレンスの司会や道徳の授業実践をとおしてファシリテーターとしての意識をもつことができた。これまでの授業者中心の授業から、生徒主体の授業

への転換が図られている。

生徒側は、6月と12月に実施した教科・道徳に関するアンケートから、6月時点では少なかった、「友だちの意見や考えを聞くこと」や「自分の意見や考えをみんなに話すこと」が授業で大切だと考える生徒の割合が増加した。「学びのステップ」の取り組みが、道徳や各教科での生徒主体の授業への取り組みに結び付いているのだと考える。

## 4 今後の展開

### (1) 学びのステップの発展

現在、「聴き方」「話し方」の2つを柱にステップ1から3までのレベルを設定し、学習や学校生活すべてをとおして自分がどのレベルにいるかを確認している。今後、「考え方」を加えた3つの柱で研究を進めていきたいと考えている。教師だけではなく、生徒とともに検討し、本校の学びをさらにバージョンアップさせていきたい。

### (2) 残された課題への対応

主体的に学ぶために必要なことは見通しをもって学習に取り組み、自分の学習を振り返りながら学習を調整する力である。そのためには、単元の最初に何ができるようになればよいのかというゴールを生徒が理解していなくてはならない。単元全体をとおしてゴールにたどり着くためにこの時間にできなくてはいけないことは何なのか、どのような方法で学んでいけばよいのかを構想し、生徒が理解できるものを示すようにしたい。

